

トーヨー養父バイオメタン発電所起工式の様子が 新聞各紙に取り上げられました

平成29年10月26日にリリースいたしました「国家戦略特区“養父市”にてメタン発酵発電施設の起工式開催および建設工事着工のお知らせ」のとおり、平成29年10月28日に起工式を執り行いました。



朝日新聞但馬版や神戸新聞など、新聞各紙に掲載されました。

農家と連携 メタン発酵発電

養父で起工式、来年3月完成予定



起工式後、公害防止協定に調印した左から岡田社長、久保田・大藪区長、広瀬市長＝養父市大藪

式典には岡田社長や広瀬市長、養父市長、久保田寛・大藪区長、工事関係者ら約40人が出席。神事などがあり、広瀬市長は「待ち望んだ事業のスタート。牛や豚、プロイラーの排泄物を活用したエネルギー事業に地域の理解が得られて希望の一步を踏み出した」とあいさつした。

同発電所は、但馬牛の飼育が盛んな養父市で、家畜ふんによる処理や農業との連携を可能とする「メタン発酵発電施設」。敷地は農地から宅地に転用された約8990平方メートル。発電規

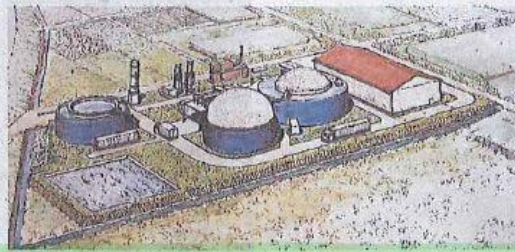
市など公害防止協定も

トーヨー建設（本社・東京）グループの会社「トーヨー養父バイオエネルギー」（本社・養父市、岡田吉充社長）によるトーヨー養父バイオメタン発電所の起工式が28日、建設予定地の養父市大藪であった。来年3月に完成、試験運転を経て同年9月売電を目指す。

模は1時間当たり1426キワット。すでに、牛やニワトリなどの畜産農家からのふんによう受け入れの交渉も順調に進んでいるという。同施設から出る残渣は堆肥などとして利用される計画。総事業費は約25億円。

この日は、同社と地域などとの相互の協調・信頼関係を強めるとして、同社と養父市、大藪区の3者による公害防止協定の調印も行われた。

（甲斐俊作）



メタン発酵発電施設の完成予想図

▲平成29年10月29日 朝日新聞但馬版 朝刊

以上